

皆生温泉のこれからを伝えるメディア

# KAIKE PRESS

#05  
2022/july

特集

## 皆生温泉に関わる人を増やす カイケエリアデザインスクール開校!!



皆生の魅力について熱く語る吉谷氏

まちづくりに関わる  
プレイヤーを増やす  
6月2日第一回の座学を皮切りに、  
「カイケエリアデザインスクール」が、  
22名の受講生を集め開校しました。

皆生温泉のにぎわい創出に官民一  
体となって取り組む「皆生温泉エリア  
経営実行委員会」の活動の一環で、ま  
ちづくりに関わるプレイヤー(人)を増  
やし、皆生温泉の活性に寄与すること  
を目的としています。全3回の座学で  
皆生温泉のまちについて、や、まちづく  
りの考え方などについて学び、その成  
果として実践型の社会実験イベント  
を受講生自らが主催する、という形  
式です。

### 皆生の魅力を歴史から思案する

第一回の座学講師は、建物のコンセプトから関わる設計事務所「設計領域」(東  
京都)の吉谷崇氏(44)。「歴史をたずね思案する」というテーマで、皆生温泉の街並  
みの成り立ちや区割りを、海外の街と比較するなどわかりやすく解説しました。

また、参加者が自由に意見を出し  
合うワークショップも行われ、四条通  
りエリア・松林エリア…といった皆生温  
泉内6つのエリアの現状や課題・魅力  
の活かし方などが話し合いました。

例えば、海岸遊歩道エリアでは「海  
が近い」「淋しい」、四条通りは「何もな  
い」「メイン通り」「古い」といったように  
各エリアに対しても意見が出され、それ  
ぞれが抱える現状が浮き彫りになり  
ました。



まちづくりに関わる  
プレイヤーを増やす  
11月には学んだ成果を  
実践イベントに！

スクールはこの後2回の座学を経  
て、興味を持ったエリア別にグループと  
なっていき、各エリアの課題解決を目  
指した活用案などを見出していきま  
す。そして、その成果として11月には、  
各エリアの活用案を具現化する実践  
イベントを開催する予定です。

参加者の1人で、60年以上皆生温  
泉で育つた坪倉元武さん(66)は、活力  
が失われていく姿を目の当たりにして  
きたといいます。昔ながらの公園遊び  
を通じたにぎわい創出を目指し「いつ  
までも子どもが元気に遊べる皆生に  
したい」と意気込んでいます。

ワークショップでも様々な意見を交換  
し合う吉谷氏

お知らせ

### デザインスクールビギナー聴講できます!!

カイケエリアデザインスクールは「座学だけ聴講」もできます！  
とってもおもしろくて、ためになる、まちづくりに関する講座が無料で  
聞けちゃいます♪ぜひお申し込みください(^^♪

### 皆生温泉、屋台レンタルはじめました!!

木の温かみが感じられて、とてもオシャレな屋台♪  
皆生の街で出店してみませんか～(^^♪



詳しくはコチラ



イベント

### 水一 SWITCH 広場

2022  
8/3  
wed

皆生のまちを楽しく  
SWITCHしていく、毎月  
第一水曜の屋外イベン  
トです。事前清掃&交  
流イベントを毎回開催！  
だれでも、毎月第一水曜  
は16:00に、米子市観光  
センター前の広場にお越  
しください！

※5月11日開催時の様子です(^^♪  
楽しいですよ～!!

皆生温泉のこれからを伝えるメディア

# KAIKE PRESS

#05  
2022/july

坂内 和孝

皆生温泉観光(株)代表取締役社長として、温泉供給事業や日帰り温泉施設「おーゆ・ランド」を経営。地域の大切な温泉資源を環境に配慮したエネルギーとして活用し、地域の明るく健康な未来を目指している。

その後、土木請負業だった有本松太郎が山陰鉄道の仕事に参画して訪れた米子の地に惚れ込み、今の皆生海岸の周りに「温泉郷を造ろう」と、1920（大正9）年頃に開発を始めました。

はじめます。

初期。約200m沖の海底で湧いているのを漁師たちが発見します。

その後、たら製鉄で流れ来た土砂が堆積し、陸地が沖に延び、それまで海底にあった泉源が1900（明治33）年には浅瀬で発見され、人々の利用が始まっています。

最初に温泉が発見されたのは明治初期。約200m沖の海底で湧いているのを漁師たちが発見します。

順風満帆に一世紀の歴史を刻んできただけではなく、多くの人の情熱に支えられ現代に受け継がれた「温泉郷」なのです。

## 坂内和孝氏に訊く、皆生温泉の歴史 「楽しめる街を、みんなで取り戻す」

「皆生温泉市街設計図」を基にした皆生温泉は60メートル四方に区画整備され、居心地がよく歩きたくなる「ウォーカブル」な街並みになっています。アメリカのポートランドなど海外の住みよい都市と共にする部分がたくさんあり、最先端の街並みだったことがうかがえます。



その後、土木請負業だった有本松太郎が山陰鉄道の仕事に参画して訪れた米子の地に惚れ込み、今の皆生海岸の周りに「温泉郷を造ろう」と、1920（大正9）年頃に開発を始めました。

この計画に基づいて、路面電車や公衆浴場など様々な整備がされ、にぎわいを見せますが、昭和初期には、たら製鉄の終焉による海岸線の浸食により源泉が波にまれるなど危機的な状況になり資金的に行き詰ってしまいます。そこからの再活性は坂内氏の祖父・坂内義雄氏が1934（昭和9）年に有本氏から引継ぎ、関係する事業者、地域住民、行政の先人たちと一緒に、様々な策で成していくます。

34（昭和9）年に有本氏から引継ぎ、関係する事業者、地域住民、行政の先人たちと一緒に、様々な策で成していくます。

その後も、1972（昭和47）年に新幹線が岡山まで延伸されたり、高速道路が整備されたりなどといったインフラ整備の発展に伴い、団体客の受け入れで発展してきましたが、時代の流れと共に個人旅行に次第にシフトし、客足が遠のいて行き、温泉街が寂れてしまいまして。

でも…「ポテンシャルは元々ある」と、坂内氏は力を込めます。「できることから始めて、5年、10年かかるとしても必ず、有本松太郎が描いた、だれもが楽しめる街を、みんなで取り戻していきたい。」坂内氏は

の「赤さ」が残る黄昏時。夕日が沈んでいき、徐々に日本海の水平線にイカ釣り漁船の漁火がキラキラと光り始める幻想的な風景は、日々の疲れを忘れさせる時間は、心が穏やかな気持ちになります。

皆生温泉海遊ビーチでは、海浜施設の漁火テラス2階から、そのひと時を眺めることができます。また、ビーチ開設期間中の週末は21時より、目の前で花火が上がりりますので、夏の思い出として素敵な時間をお愉しみください。

米子市観光協会 事務局長  
石倉 准次郎

体育会系ゴリゴリマッチョなのに心は繊細。健康第一、健康のためなら死ぬる!!皆生の海をこよなく愛する、最近は色白の地元ライフセーバーです。



私も選手として何度か出場しておりますが、国内のトライアスロン大会として、最も過酷な大会であり、トライアスリートの憧れの大会がこの地で開催されるのは、地元としても大変誇りに思います。

また、あまり知られておりませんが、皆生海岸の夕暮れはとても素敵です。8月頃、日没直後、雲のない遠くに見える島根半島の空に夕焼けの名残り

## コラム

## 実行委員会のなか vol.2

## 「わたしの好きな皆生」

米子市観光協会 事務局長 石倉 准次郎

私の中で、皆生といえば、夏の風物詩となっている「全日本トライアスロン皆生大会」です。毎年、個人の部、リレーの部を合わせて、約1,500名の鉄人たちが灼熱の皆生に大会に挑みます。

特に、スイムスタートは圧巻で、早朝にも関わらず応援、見学者の方で皆生海岸が賑わいます。コロナで中止となり、今年、3年ぶりとなる皆生大会。近年、皆生温泉から境港まで整備され、人気となっている「白砂青松の弓ヶ浜サイクリングコース」がランコースになるなど、新たな魅力的なコースで開催されます。